

おごせ 教育 Pick Up



越生小学校

越生小学校では、食育に力を入れています。特に1年生ではトウモロコシの皮むきや給食室の見学など行い、食に関する意識を高めています。埼玉県学校給食調理コンクールでは昨年度の教育長賞に引き続き、「埼玉県学校給食会理事長賞」を獲得しました。

梅園小学校

夏休み前に、1～6年までの全学年で、着衣泳の体験をしました。服を着ていると水着の時と違い、どれほど泳ぎにくいのかを実際に体験しました。事故に遭わないことが一番ですが、万が一の場合にはまずは浮いていることが大切だという事を学びました。



おごせっ子広場

町内の小中学校や町の行事等に参加する子どもたちを写真で紹介するコーナーです。

越生中学校



7月1日、給食ホールで、全校生徒・保護者対象のスマホ・ケータイ安全教室を行いました。講師の先生からは「携帯電話は便利だが、使い方を誤ると様々なトラブルに巻き込まれるので、家庭でのルールづくりが必要です」というお話をいただきました。



夕涼み会

幼稚園で初めて夕涼み会を行いました。年長組が製作したたこ焼きやくじ引きやさんなどお店を出し、先生たちがヨーヨー、駄菓子屋、射的などのお店を考え、園児をはじめ、小学生・未就園の子どもたちを招待しました。

ズームイン教育244

地域の方も
一緒に…

越生みどり幼稚園



地域の飲食店にも協力していただき、かき氷や豆腐の白玉なども食べ、夏の楽しいひと時となりました。

ファミリーデー
ファミリーデーでは「保護者の方と楽しい時間を過ごす」をテーマにコーナー保育を設定しました。割り箸鉄砲をお家の方と一緒に作ったり、おにぎりを自分で握って食べたりしました。

また、ファミリーデーの中で講演会を開き、光の家療育センター施設長の鈴木郁子先生をお呼びし「発達と愛着」をテーマにお話をうかがいました。保護者だけでなく地域のみなさんも来園され、子育てのヒントになる有意義な時間を共有できました。

越生浪漫

No. 104

渋沢平九郎をめぐる
その3



渋沢平九郎埋首之碑

今市村の島野喜兵衛と黒岩村の横田佐兵衛（佐平）が密かに渋沢平九郎の首を埋葬した法恩寺には、昭和39年（1964）に「渋沢平九郎埋首之碑」が建立されました。揮毫は渋沢元治（渋沢栄一の甥・日本学士院会員）、裏面の撰文は「渋沢平九郎自決之地」碑と同じ山口平八です。横田佐兵衛の五代目の横田芳郎家に一面の扇子が保存されています。骨を外して額装された扇面の表には、障子に大書された平九郎の遺墨と肖像を配し、「渋沢平九郎昌忠、渋沢男爵の



渋沢平九郎の肖像入りの扇子（黒岩 横田芳郎氏所蔵）

義子なり。江戸に在りて戊辰の変に会い、慨然決起し其志を障子に書き、出でて振武軍に入り飯能に西走。五月二十二日、入間郡黒山村に戦死す。時に年二十二。ここに照相（※写真）ともに併せ、その意気の壮烈を以て見るべしや」と記されています。裏には、渋沢栄一（青淵）が題詞「明治廿七年五月當義子平九郎忌辰、偶得其戰敗自盡之刀於當年官軍將校藝藩河合麟三君、悲喜交至、即賦詩三首供靈。前距今十有七年矣。茲觀帝國劇場演其事蹟、今昔之感不能

（※読み下しは町田尚夫氏による）
◆明治44年（1911）3月、渋沢栄一が設立に奔走した帝國劇場が落成しました。同年6月、渋沢平九郎を主人公にした『振武軍』が上演されました。原作は歴史小説家として一世を風靡した塚原洪祐、脚本は帝劇座付き作者の右田寅彦、主演は沢村宗十郎でした。◆「渋沢栄一伝記資料」に載る、出演者慰労会で栄一が俳優一同に贈った「平九郎肖像入りノ扇子」が、横田家の扇子と同じものでしょう。④

辛亥夏至 青淵老生

絶句を寄せています。
「日月有明能雪冤
九原豈不慰幽魂
遺刀今夜挑燈見
猶刺當年舊血痕」

禁也。因録其一【大意】明治27年5月の平九郎の命日に、思い掛けず、自刃の刀を當時の官軍將校芸州藩の河合麟三君から贈られ、悲喜こももも至り、詩を3首詠じて霊前に供えた。17年を経て、帝國劇場で（平九郎の最期が）演じられるのを観て、今昔の感を禁じ得なかつた。よつて詩の一首を記す」に続けて、七言

おごせ 昆虫と自然の館 通信 No.65

アサギマダラ

「チョウ目タテハチョウ科」

アサギマダラは美しい蝶です。幼虫は毒のあるガガイモ科の植物を食べ、体内にその毒があるため、一度本種の幼虫や成虫を食べた鳥は、本種に毒があることを学習して二度と食べません。本種の成虫がゆるやかに飛ぶのはそのためです。◆本種は数千kmの移動をすることが知られています。基本的に、春から夏にかけて、南から北に移動します。途中、世代を繰り返しながら北海道にまで達します。夏から秋にかけて北から南に移動します。越冬が可能な本州以南では、幼虫で越冬する個体もいます。◆本種の長距離移動は、国外を含む極めて多数のアマチュアの研究者によるマーケティング調査により明らかになりました。



アサギマダラの成虫

た。この調査は、今から36年前に元鹿兒島立博物館長の福田晴夫氏らにより始まりました。その前年、福田氏から筆者に、長距離移動する昆虫のマーケティング調査の有効性について問い合わせがありました。実はこの前年、予備実験としてアサギマダラのマーケティング調査をした人物がいたので、それは筆者とムラサキツバメという蝶の生態を調査した中川君です。当時筆者は、数種の昆虫でマーケティング法により移動の調査をしていたのですが、恐らくそれがヒントになったのでしよう。◆越生町では5月から10月頃まで山間部の開けた場所で、個体数が少ないながら、その優美な姿を見ることが出来ます（巢瀬司）